



大阪公立大学の研究者の世界

第13回

ACADEMIC CAFE

2025 12.4 Thu

申込不要

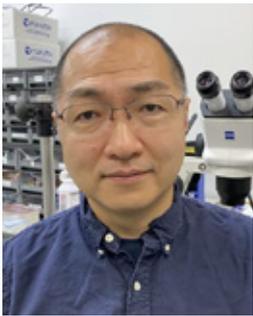
15:00～17:00 ハイブリッド開催

参加方法:対面・・・杉本C学術情報総合センター1階文化交流室
遠隔・・・ZOOMウェビナーより

※URL・パスワードはOMUポータル及び学生ポータル (UNIPA) に掲載します

テーマ 脳と心について考える

Episode1. 記憶する脳 - 海馬が描く空間地図



水関 健司
医学研究科 教授

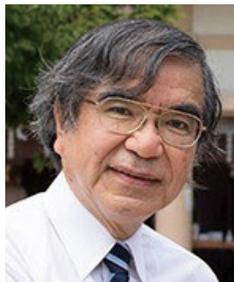
私たちの思考や行動、自己意識、他者との関わりは、過去の経験を記憶し想起する脳の働きに支えられています。すなわち、記憶の仕組みを理解することは自分自身を理解することに他なりません。その鍵を握るのが、脳の奥深くにある「海馬」という領域です。海馬は、「いつ・どこで・何を」経験したかという出来事の記憶＝エピソード記憶を司ります。今回は、海馬が「どこで」を表現する仕組み、すなわち脳内の空間表現の原理について紹介します。

Episode2. 共感覚から脳の学習原理を探る



牧岡 省吾
現代システム科学研究科 教授

ナンバーフォームという共感覚をもつ人は、数について考えるときに、数が特定の配列で並んでいるように感じます。数の並び方は、直線、曲線、ジグザグなど、人によって様々です。文字に色を感じる色字共感覚でも、文字と色の結びつきは個人間で異なり、Sから紫を感じる人もいれば、青を感じる人もいます。なぜこのような多様性が生じるのでしょうか。共感覚の多様性を手がかりに、脳の中で働く学習原理について考えていきます。



ファシリテーター
鳥生 隆
特任教授 (メンター)

■プログラム

- 15:00 開会の挨拶
寺北 明久 副学長
- 15:05 イントロダクション
鳥生 隆 特任教授
- 15:10 講演
水関 健司 教授
- 15:50 講演
牧岡 省吾 教授
- 16:35 座談会
鳥生 隆 特任教授
水関 健司 教授
牧岡 省吾 教授

All religions, arts and sciences are branches of the same tree. Albert Einstein

われわれは、すべてのものを包括する統一的な知識を求めようとする熱望を、先祖代々承継してきました。学問の最高の殿堂に与えられた総合大学 (university) の名は、古代から幾世紀もの時代を通じて、総合的な姿こそ、十全の信頼を与えられるべき唯一のものであったことを、われわれの心に銘記させます。しかし、過ぎる100余年の間に、学問の多種多様の分枝は、その広さにおいても、またその深さにおいてもますます拡がり、われわれは奇妙な矛盾に直面するに至りました。われわれは、今までに知られてきたことの総和を結び合わせて一つの全一的なものにするに足る信頼できる素材が、今ようやく獲得されはじめたばかりであることを、はっきりと感じます。ところが一方では、ただ一人の人間の頭脳が、学問全体の中の一つの小さな専門領域以上のものを十分に支配することは、ほとんど不可能に近くなってしまったのです。

この矛盾を切り抜けるには (われわれの真の目的が永久に失われてしまわないようにするためには)、われわれの中の誰かが、諸々の事実や理論を総合する仕事に思いきって手を着けるより他には道がないと思います。

シュレーダイナー：岡小天、鎮目恭夫 訳
「生命とは何かー物理的にみた生細胞」
まえがきより抜粋

知の
SEEDS
大阪公立大学